

議題② 令和2年度企業版ふるさと納税活用事業の検証

項番事業	2-1-1「ますだ暮らし定着支援事業」
事業担当	連携のまちづくり推進課
事業内容	○ますだ暮らし定着支援事業助成金の交付 安定したますだ暮らしの実現及び益田市への定着を図るため、益田市内で新規就業したUターン者及び新規学卒者に対して助成金を交付した。
委員質問	①R2実績の就業先として医療機関、社会福祉法人とあるが、これはどのような職種か？ ②実際5年以内に市外へ出た人はどれくらいいるのか？ ③もう少し異ったお金の使い道を検討してみてもどうか？
担当回答 (質問)	①この事業において、就業先での職種は把握しておりません。 ②この事業は令和2年度に開始し、94人に助成金の交付決定をしましたが、そのうち2名が年度内に市外に転出されています。また、過去に実施したUターン者応援事業補助金、Uターン者定住奨励金及び新卒者就労奨励金において、5年以内に転出し交付決定を取り消した人数は、交付決定者1,028人中138人です。
委員意見	・この助成金を目当てにUターンする人はいないと思う。また、もらったからといって定着につながっているかは疑問。 ・どの程度の助成金を交付するのかわからないが、助成金の有無により就業先を選択するわけではないと思うので、どのような効果がどの程度見込めるのか要検討だと思う。 ・Uターン希望者にさらなる情報提供の場を求める。
担当回答 (質問③ 意見)	③ますだ暮らし定着支援事業助成金は、国が実施している東京23区からの移住者に対する移住支援金制度（わくわく益田生活実現支援事業）に該当しない移住者（東京23区以外からの移住者等）に対し、市独自でUターン者又は新規学卒者が市内の事業所等に新規就業した場合に助成金を交付している制度です。この事業では、就業した人を対象とするとともに、交付決定者には地域活動や市が主催する研修会等へ積極的に参加するよう促しており、地域と関わりを持ち続けることで、益田市への定着につなげることを目的として実施しております。事業終期はわくわく益田生活実現支援事業と同様に令和6年度としておりますが、事業効果を検証しながら事業内容について検討していきたいと考えます。

議題② 令和2年度企業版ふるさと納税活用事業の検証

項番事業	2-1-2「ひとづくり推進事業」
事業担当	協働のひとづくり推進課
事業内容	<p>○益田版カタリ場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生と大人による原則1対1の対話を通して、「これまでの人生と、これからどうありたいか」自分自身の生き方について考えることで、自分の「心に火を灯す」授業を実施した。</li> </ul> <p>○高校生期のライフキャリア教育（教育魅力化コーディネーター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の学校外での活動づくりや、高校と地域・企業・行政をつなぐコーディネーターを配置し、取組を行った。</li> </ul> <p>○JAFこころのプロジェクト夢の教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本サッカー協会に所属する元アスリートや現役アスリートが自分の夢を実現するためにどんな事をしたか、また挫折や悩んだ時にどのようにその苦勞を乗り越えたかをオンラインを通じて小学生に伝えた。</li> </ul> <p>○関係人口の創出（私立高等学校魅力化補助金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・益田市の私立高校には、約250名の県外生が在籍している。特にこの県外生を対象とした地域活動を実施することで、卒業後も第2のふるさととして益田市と関わり続ける人材（関係人口）の確保へつなげた。具体的には「食」をテーマとしたコンテンツづくりや交流の場の創出を行った。</li> </ul>
委員質問	なし
委員意見	<p>○益田版カタリ場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「一度は市街に出ても、将来益田でくらしたい」との回答割合が実施後に有意に高まったのはすばらしい。</li> </ul> <p>○高校生期のライフキャリア教育、○JAFこころのプロジェクト夢の教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の2つの事業は若者のこころの啓発に意味のある取組だと思う。</li> </ul> <p>○関係人口の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内私立高校に250名の県外生がいるとは知らなかった。良い取組だと思う。</li> <li>・中高生の時期にライフキャリア教育を行うことは重要であり、その中でも事業として考える機会を提供することは学校単体ではなかなかできないことであるため有意義だと思う。</li> <li>・すぐに成果が表れる取組ではないが、長期的にみればとても有意義だと思う。</li> <li>・効果のある事業であり、継続・拡大を求める。</li> </ul>
担当回答 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・益田版カタリ場をはじめとしたライフキャリア教育により、子どもの意識の変容が表れるとともに、子どもに関わる大人の意識も変容し、子どもに関わることや地域づくり活動への参画が促されるという関わりが生まれています。</li> <li>・持続可能な地域づくり・ひとづくりの好循環を生むためには、ライフキャリア教育に関わった大人を、より意識的に次の地域活動へつなげることが必要であり、コロナ対策に配慮しながら、そうした場づくりを意識して行ってまいります。</li> </ul>

議題② 令和2年度企業版ふるさと納税活用事業の検証

項番事業	2-1-3「小規模校合同学習実施事業」
事業担当	学校教育課
事業内容	<p>○小規模校4校合同宿泊研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内4校の小規模校の5・6年生が、県立少年自然の家で2泊3日の宿泊研修を実施した。</li> </ul> <p>○小規模校オンライン交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校6校で、オンラインを活用して、交流学习や授業を実施した。</li> </ul>
委員質問	なし
委員意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模だから何もできないではなく、小規模同士だから繋がれる、繋がれたから少し大きな事ができるとても良い事業だと思う。今後も活動の幅を広げていただきたい。大きな学校ではうもれてしまいそうな子でも小規模校ならいきいきと生活できるかもしれない。小規模校ならではの魅力をしっかり情報発信していくのも必要ではないかと思う。</li> <li>・事業内容は高学年が中心のようだが、小学校の低学年のうちは、比較的すぐに友達になれると思うので、低学年のうちから交流の機会を設けていくのも良いと思う。小学校の高学年になると、すぐに友達になれるわけではないと思うので、繰り返し交流する機会を設ける必要があると思う。</li> <li>・コロナの影響でオンラインによるイベント参加等の機会が増えており、小学生のうちから、正しいオンライン参加の方法を学ぶという機会にもなるので、オンラインの活用もとても良いと思う。</li> <li>・同級生ともだちが増えることは良いこと。また「挑戦する気持ち」が高まったとの数値が有意に増えたのは素晴らしい成果。今後、オンラインを活用した交流によっても、自尊感情、調整する気持ちを高めることが出来れば良い。創意工夫を期待している。</li> <li>・効果のある事業。ICT機器の活用の推進を求める。</li> </ul>
担当回答 (意見)	<p>・多くのご意見をいただき、ありがとうございます。各委員さんからいただいたご意見をもとに、普段から小規模校同士が連携できるような環境づくりを進め、多くの児童と関わり続ける機会を提供することで、引き続き各児童が挑戦することを恐れず、健やかに成長していけるような取組を行ってまいります。</p>

議題② 令和2年度企業版ふるさと納税活用事業の検証

項番事業	2-2-1「サイクリストおもてなし事業」
事業担当	観光交流課五輪キャンプ誘致推進室
事業内容	<p>○道路への案内サインの設置（100ZEROコース）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外から益田市に走りに来たサイクリストの方が迷うことなくコースを走ることができるよう案内サインを設置した。</li> </ul> <p>○サイクルスタンドの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高津川流域材を使用した木製サイクルスタンドと鉄製サイクルスタンドを製作し、益田市サイクリストサポート企業（市内郵便局等）に設置した。</li> </ul>
委員質問	なし
委員意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度は、コロナの影響で県外からの利用客が減っているものと思われるが、今後の活動に向けて準備を行うことが必要だと思うので、引き続き継続していくのが良いと思う。</li> <li>・安心・安全なサイクリングのまちとして益田市をPRできる様、推進する事を求める。</li> </ul>
担当回答 （意見）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度はコロナ後を見据えサイクリストの受入環境整備を重点的に行いました。今後とも豊かなサイクリング環境を国内外に広くPRするとともに、ソフト面における受入環境の整備等も推進し、国内外からのサイクリストの誘客に努めてまいります。</li> </ul>